

## 人間発達学部

子ども発達学科教授 加藤 義信

## 1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称(項目ごとに記入する)	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等(共著の場合のみ編者・著者名を記入)
論文			
1 「心の理論」と表象理解 —2～4歳児はどんな心の世界に生きているか—	2013. 7	発達, 135号, 30-35	「心の理論」研究30年を記念して組まれた特集号に依頼論文として掲載された。「心の理論」の発達とは他者の心の理解の発達の問題として一般的には受け取られているが、その発達の中核には「表象の主観的性質の理解」の問題があることを、理論説の立場に立つPernerの所論を引用しつつ、論じた。また、この観点を実証的に明らかにするために、幼児における多義図形理解の実験が有効であることを示し、筆者によるその実験の一部を紹介した。
2 自己と世界の距離化： 表象発達研究のこれまでとこれから	2014. 3	愛知県立大学教育福祉学部論集, 62, 1-10.	愛知県立大学退職記念論文として執筆。これまでの自らの研究歴を振り返り、県立大学での学生たちとの研究上の「出会い」、それに至るまでの「前史」、退職後の研究の「これから」を語った。その中でわけても、自らの表象発達研究が「自己と世界の距離化」という視点を踏まえて展開されることになった経緯を詳しく論じた。
事典			
発達心理学事典 (分担執筆)	2013. 5	丸善出版	日本発達心理学会編の本格的な発達心理学の事典。筆者は「表象」の項を執筆(pp.388-389)。表象の定義、表象機能の発生に関する理論的立場、近年注目されるDeLoacheの二重表象の研究等を、丹念に紹介した。
書評			
滝川一廣『子どものそだちとその臨床』を読む	2014. 3	生涯発達研究, 6, 91-92.	児童精神科医・滝川一廣の近著の書評。滝川が、「発達障害の本質とは精神発達の相対的遅れであり、定型発達との連続性をもっている」と言い切るとき、障害の特性論的捉え方とは異なる子どもへの支援の展望が開けることを指摘・紹介した。
翻訳			
フランソワ・ミュレール 『生徒にとってよき教師であるための10の問い』	2014. 3	生涯発達研究, 6, 59-62.	2013年11月27日に愛知県立大学で行われたF. ミュレール氏の講演の原稿の抜粋翻訳。氏は、フランス国民教育省研究開発部門顧問。教職を志す日本の大学生に「よき教師とは何か」を10の問いかけとして語り、感銘を与えた。

学会発表			
1 Do young children have difficulty dissociating the weight of a photograph from that of the object depicted in it?	2013. 9	16th European conference on developmental psychology. (Lausanne, Switzerland)	共同発表 (Kimura, M. & <u>Kato, Y.</u> )。 写真と実物とを機能的には十分区別できている幼児でも、写真は被写体の視覚的属性以外の属性を共有していると考えていることを、「重さ」という属性に注目して実験的に明らかにした。
2 幼児における多義図形理解の発達 2		日本発達心理学会 第 25 回大会論文集, P.211.	共同発表 (工藤英美・加藤義信)。 3 歳児、4 歳児は多義図形を 2 通りに見ることが困難であるが、それは「1 つの見え方には 1 つの現実が対応する」との理解を脱却できないからであることを、図形のモーフィングによる実験で示した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動